

7月15日の黙想を受けて(ここをクリックすると伝道者の黙想が開きます)

(マタイの福音書 第6章 26節)

早くあれもしなければ、これもしなければ、という思いに囚われてあせるときに空の鳥を見上げたい。鳥たちを愛して生きるための全てを備えておられる神さまの力を想いたい。自分の魂を静めて内におられるイエスさまに自分の体を動かしていただきたい。

7月18日の黙想を受けて(ここをクリックすると伝道者の黙想が開きます)

(哀歌 第3章 21～23節 a)

感染症や世界のバツタの襲来の危機のことからこの世の危機と霊的な危機のことを想います。するとこの危機のときに信仰を与えられている自分は、昨日はあれをすべきだった、これはすべきではなかった、という想いがあります。悲しみながら今朝の恵みの光と望みを見たいと思い、祈ります。

7月20日の黙想を受けて(ここをクリックすると伝道者の黙想が開きます)

(コリント人への手紙第一 第10章 31節)

つい半年前には予想もしなかった毎日の生活を想うときに、明日はどうなるかは本当に分からないと実感できるようになった。自分のこの世での命もいつまで続くか本当に分からない。そうであれば、一瞬一瞬をよく生きたい。食べるのも飲むのもただ神の栄光のためにしたい。

7月24日の黙想を受けて(ここをクリックすると伝道者の黙想が開きます)

(箴言 第25章 25節)

感染症が猛威を振るっている遠い国に住む家族のことを想う。一時帰国もしばらく無理だろう。元気でやっている消息を受け取るとき、主の愛と力を思い感謝する。

7月28日の黙想を受けて(ここをクリックすると伝道者の黙想が開きます)

(申命記 第6章 4節)

気になることが多くある。家族のこと、友人たちのこと、仕事のこと、お金のこと、いろいろな締切のこと。一度、これらをすべて神さまにお返ししたい。するとこれらの重要性が消えていくように思われる。それから神さまが与えてくださっているものとしてこれらを見たい。するとこれらの重要性が違う意味で見えてくる。神さまの声が聞こえてくる。

8月1日の黙想を受けて(ここをクリックすると伝道者の黙想が開きます)

(マタイの福音書 第7章 13節)

誰にでもいつでも開かれている狭い門を見る。この門を開くために父なる神さまが愛するひとり子を十字架につけられたつらさ、イエスさまがゲッセマネの園で血の汗を流された十字架の贖罪と尊い血でのきよめのつらさを想う。さまざまな誘惑の広い門を想う。私たちが狭い門から入り、広い門の誘惑に忍耐し、とどまることができますように。

まさお